

area 4 御幸橋、枚方大橋 12.5km

御幸橋→樟葉ゴルフ場→牧野ゴルフ場→淀川資料館→枚方大橋

コースガイド

御幸橋から枚方大橋にかけては、三川合流や枚方宿など、地形面においても文化面においても淀川を語るには核心部ともいえる地域だ。とはいえ、現実には歩くとなると、川沿いはゴルフ場が大半を占め、特にコースの前半は歩道のない車道の路肩を歩くために決して快適なウォークが楽しめるとはいえない。

ただし、起点となる八幡、終点となる枚方には見どころが多いのでうまく組み合わせながら歩くと、淀川に対する見方があらたまること請合である。

石清水八幡宮で知られる京阪八幡市駅をおり、踏切を渡って御幸橋へ向かう。春の桜の頃なら、ぜひ淀川河川公園の背割堤地区まで足を延ばしてみたい。木津川を挟んで男山を望む春景色はなかなかのものだ。

御幸橋の袂からは交通量の多い車道の川沿いの路肩を歩くが、ここでいったん信号を川沿いに渡ると、樟葉まで横断歩道はないので心構えを。牧野ゴルフ場からは堰堤が歩けるようになるので安心だ。淀川河川公園枚方地区に入ると枚方大橋はすぐそこだ。

枚方大橋の最寄駅は枚方公園駅だが、枚方宿を経由する京街道を通り、枚方市駅へ歩く方が、淀川の暮らしと歴史を知る上でも充実したウォークとなるだろう。

周辺ガイド

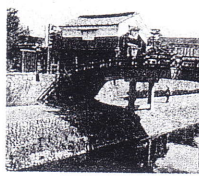
石清水八幡宮

貞観元年（859）創建の古社で、祭神は応神天皇、神功皇后、比咩大神。一般に男山とも呼ばれる。八幡造りで知られる社殿は徳川家光造営で重要文化財に指定されている。発明王エジソンがこの竹をフィラメントに用いて電球を作ったことでも知られる。ケールで登ることもできるがここはやはり歩いて登りたいところ。ゆつくり登って約20分余りの行程だ。また、麓を流れる放生川「帯は」やわた放生の景として整備され川べりに遊歩道が作られており、軽い散策にちよいとよい。

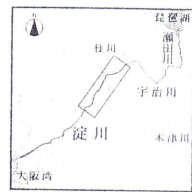


背割堤

三川合流地点にあり、木津川と宇治川に挟まれた地帯。淀川河川公園背割堤地区として整備され、御幸橋から三川合流に向かう1・4kmの遊歩道には250本のソメイヨシノが

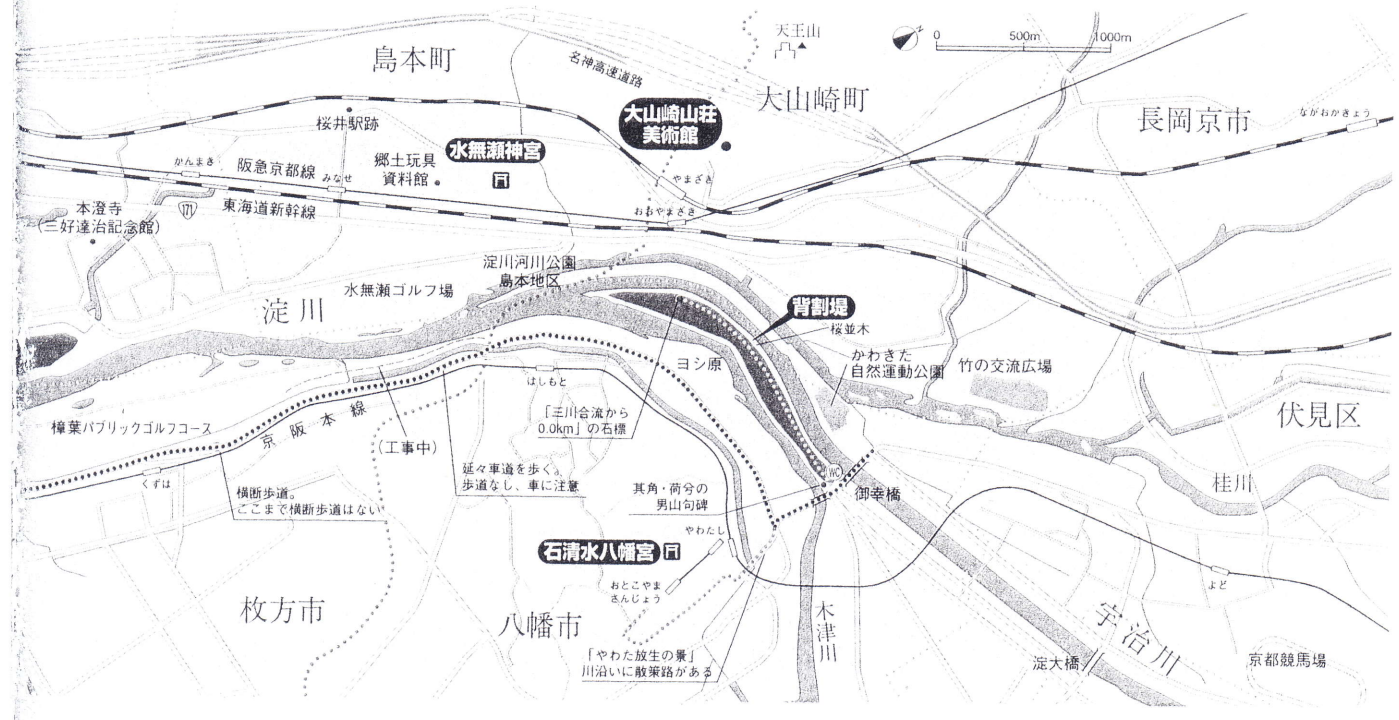


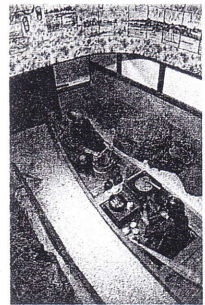
植えられ、春には見事な桜並木となる。芝生広場などもあり市民の憩いの場として親しまれている。



枚方宿健屋資料館

「健屋浦には碇が要らぬ 三味や太鼓で船止める」と三十石船歌に登場する健屋。天正年間創業と伝えられるこの船待ち宿の遺構を利用して枚方市が歴史資料館として開設した。枚方宿とは、大坂城落城後、大坂まで延長した東海道（京街道）に開かれた四宿場の一つ。現在でも宿内では昔の面影を残した建物にそここで出合うことができる。枚方宿のシンボル・くらわんか舟とは、三十石



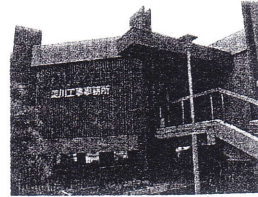


船の乗客相手に飲食物を商った煮売茶舟のことで「餅くらわんか、酒くらわんか」と売り言葉を上げていたことからそう呼ばれた。館内には宿場の資料やくらわんか舟の資料が揃

う。再現されたくらわんか舟が展示され、モニターからは多少乱暴とも

いえる、河内弁の威勢のいい売り言葉が聞こえてくる。19世紀初頭に建てられた主屋は枚方市の文化財に指定されている。9時30分～17時（入館16時30分）、火曜休（祝日の場合は翌日休）、200円。☎072・843・5128

淀川資料館



動植物から歴史に至るまで淀川に関する事象をパネルやモニター、文献などを用いて解説する。川底から出土したくらわんか茶碗や淀川の古地図など、淀川の理解を深めるのに貴重な資料が展示されている。床には淀川流域の詳細な航空写真が敷かれており、知っている建物や、自分の家などを探すのも面白い。9時16時30分（入館は16時）、火曜休、無料。☎072・846・7131

くらわんかギャラリー 塩熊商店

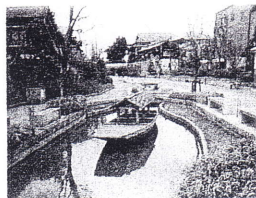
旧街道沿いの昔の町家を利用した

ギャラリー



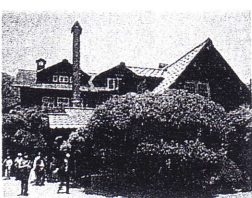
で、波佐見焼のくらわんか茶碗をはじめ藍染めや草木染めの小物などが手に入る。お茶やコーヒーなどの喫茶もやっているの

水面廻廊



枚方大橋近くにある親水公園。三十石船のミニチュメントがあるほか、淀川の水をひいて北河内・帯の田畑を潤し、洪水を防ぐために昭和5年に完成した台同樋門の跡がある。

大山崎山荘美術館



大正から昭和初期に大阪の実業家・加賀正太郎が築いた英国風の洋館を修復した美術館。隣接する安藤忠雄設計の新館にはモノの「睡蓮」の連作が展示されている。10時17時、月曜休、600円。☎075・957・3123

水無瀬神社

仁治元年、隠岐に流されて客死し

た後鳥羽上皇を偲び、水無瀬信成親子が離宮のあったこの地に御影堂を建立したのが始まりとされる。見応えのある客殿や茶室は国指定重要文化財で、その他、後鳥羽上皇像などの国宝も所有。境内には日本の名水百選に選ばれた離宮の水があり、水を汲みに来る人の姿が絶えない。

鵜殿のヨシ原

面積約75ha、甲子園球場の10倍の広さを持つ淀川でも最大級のヨシの群落。古くは紀貫之の『土佐日記』にもその名が見られ、谷崎潤一郎も鵜殿を舞台に『吾知り』を著わしている。鵜殿のヨシは昔からひちりきの舌の材料として珍重され、その他、スタレやヨシズなどの生活部材として利用されてきた。現在は淀川流域に残る貴重な自然として注目されている。有名な鵜殿のヨシ原焼きは昨年は中止されたが、今年は再び実施



交通

● 起点：京阪本線八幡市駅下車
途中から・樟葉バブリックコースの信号から京阪本線樟葉駅へエスケープ可
● 終点：枚方大橋から京阪枚方公園駅まで徒歩10分、枚方市駅まで徒歩30分

問い合わせ

枚方文化観光協会（枚方宿健屋資料館内）☎072・804・0033

